

■ 活動実績・活動報告

私たち「ひとりぼっちにさせへんプロジェクト」は、若者が直面する孤立・虐待・経済的困難・住居不安定などの課題に寄り添い、安心できる居場所と、信頼できる大人との出会いを届けることを目的に活動しています。

グリ下エリアでは、夜間巡回による食事支援・声かけ・相談対応を通じて、若者たちが「最初の一步」を踏み出せるよう伴走しています。

本資料では、直近の活動状況と現場で見えてきた課題をまとめてご報告いたします。

■ 期間中の活動概要

当プロジェクトでは、グリ下エリアにて夜間巡回・食事支援・相談対応を継続的に行い、200件の相談対応を実施いたしました。

相談内容は多岐にわたり、家庭環境の不安定、生活困窮、居場所の欠如、虐待歴・自傷行為、就労の不安定化など、複合的な課題を抱える若者が多く見られました。

また、衣服支援・食事提供・同行支援を通じて、3名が就職・アルバイト採用に繋がりました。

■ 活動の中で確認された若者の傾向(抜粋・裏面記載)

■ 夜回り中の特徴的な動き

- ・ 数ヶ月前に関わった子がこちらを覚えて声をかけてくれる場面が複数
- ・ 奈良・神戸など他地域からの流入も確認
- ・ 初対面の若者でも、食事支援をきっかけに信頼関係が築けることが増加
- ・ 長期間グリ下にいる若者の生活変動(落ち着いてきた／また不安定になった等)の把握

■ 行政職による現場理解の広がりについて

複数自治体の福祉職の方々が、個人の立場(勤務時間外)で夜回りに参加されるケースが継続的に見られています。

特に尼崎市の福祉職の職員の方々が、自主的な学びの一環として、ほぼ毎回のように現場を見に来られており、若者支援の実情を直接把握しようとする動きが広がっています。

これらの参加はすべて、個人としての自主参加であり、自治体が公式に夜回りを実施しているものではありません。

とはいえ、行政職の方々が継続的に現場へ足を運ばれていることは、若者支援の課題を机上ではなく“現場で理解しようとする姿勢”の高まりであり、今後の多機関連携を進めるうえで非常に重要な動きと捉えています。

現場に来ていただくことで、制度の隙間に落ちてしまいがちな若者たちの実態が共有でき、行政との連携がより現実的で実効性のある形へ進むことを期待しています。

● 家庭環境の問題

- ・ 親からの暴力・虐待(身体・性的)が複数件
- ・ 10代で家に帰れず、グリ下で夜を明かすケース
- ・ 母子家庭での兄弟間暴力、親の不在
- ・ 親の再婚による居場所の喪失

● 児童養護施設・一時保護経験者

- ・ 施設と合わず外泊を繰り返す
- ・ 戻りたくないとの訴え
- ・ 施設利用者間トラブルによる夜間滞在

● 経済的困難

- ・ 食事を十分に取れていない
- ・ 身分証未所持で就労困難
- ・ 収入が不安定で寝場所が確保できない
- ・ スーツケース生活、友人宅・路上の往復

● リスク行動(初期段階含む)

- ・ 万引き
- ・ パパ活
- ・ 未成年の飲酒
- ・ 深夜の無目的滞留
- ・ 自傷痕が複数確認されるケース

● 精神的な不安定さ

- ・ 希死念慮の言及
- ・ 自傷行為の痕(新旧混在)が複数例
- ・ 「家よりグリ下が落ち着く」という声も多い